

その技術を
明日のために



防衛装備庁

長官官房人事官付採用担当
〒162-8870東京都新宿区市谷本村町5番1号
TEL: 03-3268-3111 内線番号35168
<https://www.mod.go.jp/atla/saiyou/>

防衛装備庁 研究職採用案内

その技術を、明日のために。

防衛装備庁は自衛隊の活動に欠かせない
 装備品等に関する政策立案や調達等を担っており、
 研究職技官は平和と安全を堅守する研究者として
 先進技術を駆使した研究開発および技術行政に関わっています。

研究開発事業を自ら企画し、技術的な専門性を発揮するだけでなく、
 事業の遂行に必要な行政上の調整も担いながら
 省内や企業を含むチームを率いてプロジェクトを牽引できる人。

AI、サイバー、量子といった民生分野で先行する最新技術を獲得するため、
 スタートアップ企業や学界とも積極的に交流し、
 将来の防衛装備品への適用の可能性を探る力を持った人。

次期戦闘機の日英伊共同開発、豪州の次期汎用フリゲートの
 共同開發生産といった国際事業や米国などと進める共同開発など、
 海外との協業や交流の場面が増える中、国際的なコミュニケーション能力を
 発揮して海外企業の職員と対等に渡り合える人を
 私たちは求めています。

さあ、その技術力を明日のために。
 防衛技術の最先端がここにあります。

防衛装備庁における研究職技官の役割

研究職技官は、装備品等の研究開発に係る業務に幅広く従事する中で、
 主に次の4つの役割を担っています。

技術の研究開発

我が国の平和と安全を堅守する使命を持つ
 研究者として、基礎的知識と技術を十分に
 習得した上で、先進技術を駆使した研究
 開発に関わっていく役割。

リーダーとして プロジェクトを牽引

大規模なチームをコミュニケーション力と
 統率力でまとめるプロジェクトリーダーと
 して、次の時代の装備ニーズを予測し、困難
 な開発課題を乗り越えていく役割。

技術行政の推進

幅広い知見と業務経験を有した行政官と
 して、他省庁とも密接な対話と連携を図り、
 防衛装備庁の開発・運用ノウハウを活用した
 効率的な技術行政を進めていく役割。

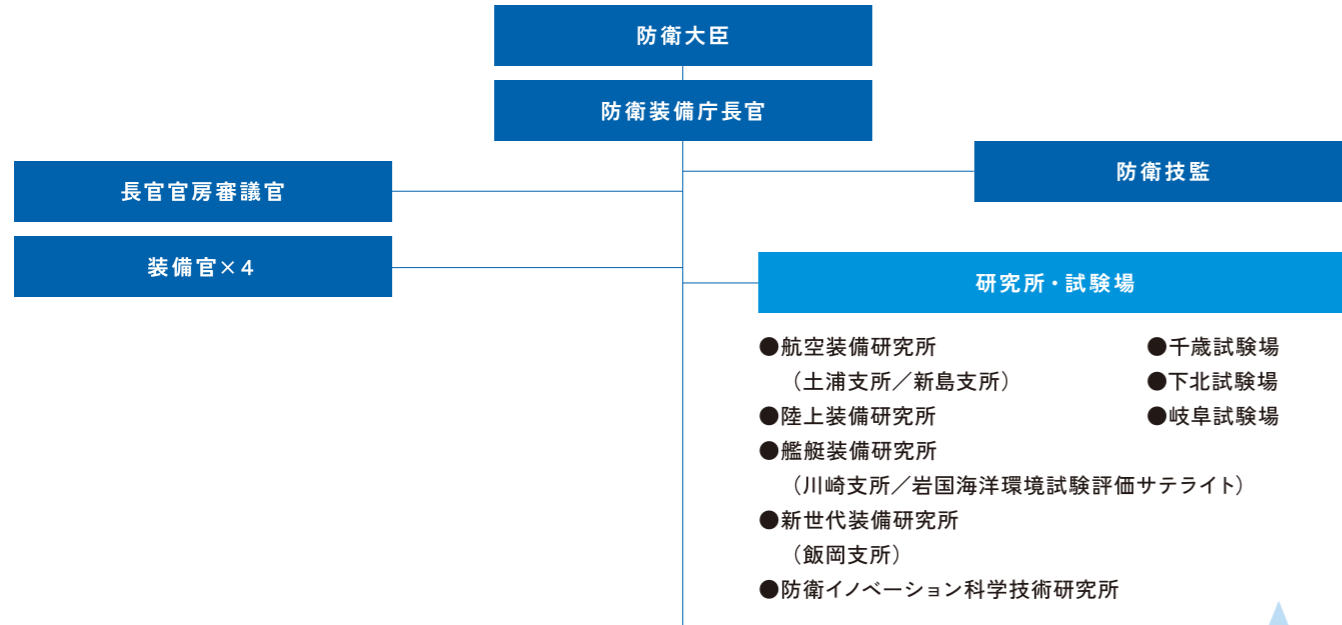
国際協力・共同研究

たしかな語学力や国際的視野を備えた
 グローバルな人材として、諸外国との交流を
 はじめ、重要性の高い国際共同研究開発、
 装備・技術移転の場で活躍していく役割。

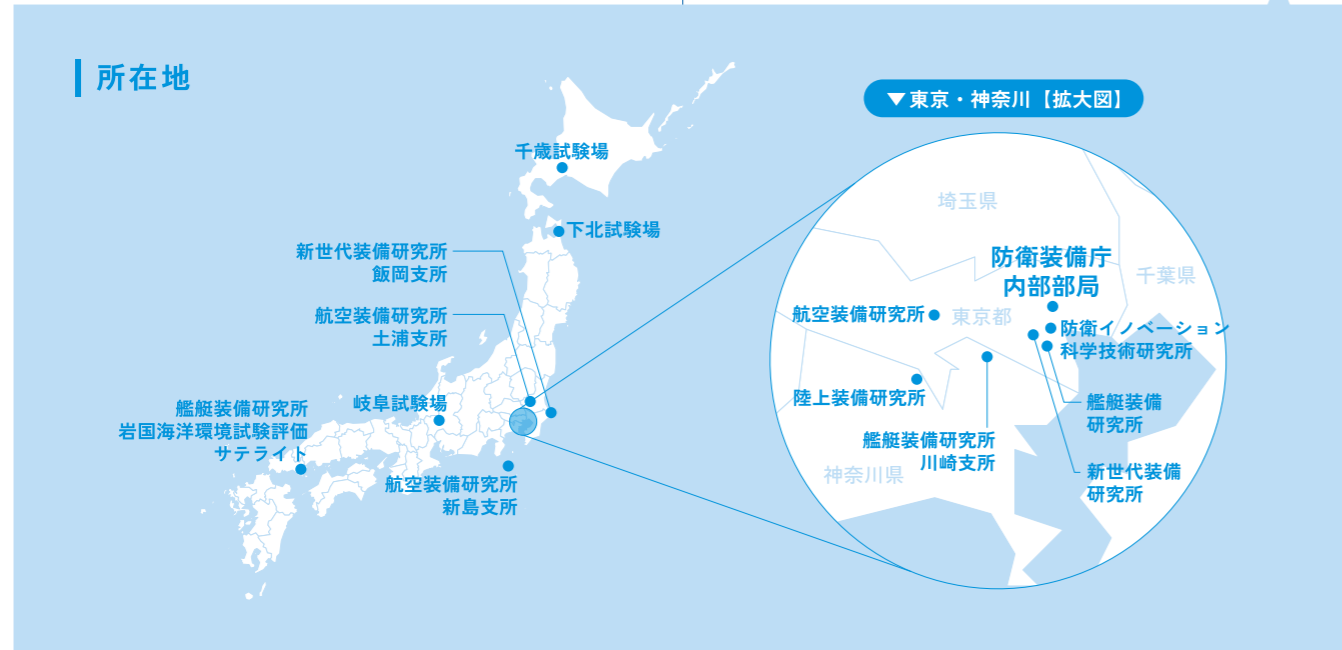
CONTENTS

防衛装備庁 研究職技官の役割	2	技術の最前線 01 [レールガン]	7	航空装備研究所	17	試験場	21	キャリアステップ	25
組織と所在地	3	技術の最前線 02 [スタンド・オフ・ミサイル]	9	陸上装備研究所	18	防衛イノベーション科学技術研究所	22	女性研究所技官のキャリアストーリー	27
部門紹介	4	技術の最前線 03 [次期戦闘機]	11	艦艇装備研究所	19	他省庁への出向職員	23	福利厚生	29
防衛装備庁で研究する意義とは	5	技術の最前線 04 [宇宙関連事業]	13	新世代装備研究所	20	海外への留学職員	24	募集要項	31
		技術の最前線 05 [船舶関連装備]	15						

防衛装備庁の組織



所在地



内部部局

長官官房 Category 01 組織運営に関する管理・統括を担う中枢部署。 職員の人事、庁内事務の総合調整、広報など組織の円滑な運営を支えるための業務を担います。装備開発官は装備品等（船舶を除く）の考察及び試作に関する業務を担い、艦船設計官は船舶の考察及び設計に関する事務をつかさどります。	装備政策部 Category 02 装備政策全般を企画立案する装備行政の司令塔。 装備品等の開発・調達・管理に関する基本方針や制度・政策の企画立案を担い、防衛産業の基盤強化、装備品等の海外移転、国際協力の推進等を行います。
プロジェクト管理部 Category 03 主要装備品等に関する事業プロジェクトを管理する。 装備品等の取得・運用・維持整備・廃棄までのライフサイクル全体を管理し、関係機関と調整しながら最適な装備品等の取得を実現します。	技術戦略部 Category 04 装備品等の研究開発に関する政策や制度を企画立案する。 装備品等に必要となる将来技術を見据え、研究開発の重点分野や方針を策定し、関係省庁や大学・企業と連携するなど技術投資を統括します。
調達管理部 Category 05 装備品等を調達するための制度や政策を企画立案する。 様々な装備品等を調達するため、入札や契約、予定価格の算定、監督検査や品質管理に関する制度・政策の企画立案や基準の設定などを行います。	調達事業部 Category 06 自衛隊の活動や研究開発に必要な装備品等や役務等を調達する。 調達実務を担当する部署として調達に関する仕様書の作成、予定価格の作成、企業等との契約締結、契約履行の管理等、中央調達における調達業務全般を担います。

施設等機関

研究所 Facility 01 航空装備研究所 航空装備研究所 土浦支所 航空装備研究所 新島支所 陸上装備研究所 艦艇装備研究所 艦艇装備研究所 川崎支所 艦艇装備研究所 岩国海洋環境試験評価サテライト 新世代装備研究所 新世代装備研究所 飯岡支所 防衛イノベーション科学技術研究所 先進的・革新的な研究開発を推進する。 各研究所ではそれぞれの専門領域ごとに先進技術の調査から技術リスクの解決、試験評価等を進めています。	試験場 Facility 02 千歳試験場 下北試験場 岐阜試験場 研究開発中の装備品等について試験や評価を行う。 各試験場において大規模な試験等を安全かつ効率的に実施し、その試験データを正確に評価します。
---	--

防衛装備庁で研究する意義とは

防衛装備庁の研究職技官ではどのような意義を感じられるでしょうか、ここでは4つの事例を紹介します。

01

自らの研究によって 我が国の安全保障環境に 貢献できる

国際情勢が不安定化し、世界各国が技術開発を進めている中、自衛隊が使用する装備品等において先進的・革新的な技術を取り込むことで技術的優越を維持・発展させるのが研究職技官の役目です。自らの研究が国の防衛力強化や抑止力につながるなど、将来にわたり国や国民の安全を守り抜くための防衛力基盤を築くことで国防に貢献します。防衛装備庁では陸・海・空、さらに宇宙関連事業など幅広い分野で研究開発を行っているため技術の裾野はとて広く、様々な技術や知見を存分に活かすことができます。



Research at ATLA 01

02

事業を運営する側のリーダーとして 大規模なプロジェクトを 牽引できる

日英伊の三カ国で共同開発を行っている次期戦闘機や宇宙領域における防衛力強化を目指した宇宙関連装備など、防衛装備庁では様々な大規模プロジェクトを進めています。研究職技官はプロジェクトの構想から企画立案、要件定義、基本設計、研究開発計画の策定、予算調達、プロジェクト管理などプロジェクトの根幹に関わる重要なフェーズを担っています。民間企業や研究機関など多様な関係者を統括するのは容易ではありませんが、いくつもの困難な課題を乗り越え、無事にプロジェクトを完遂した時には大きな達成感が得られます。



Research at ATLA 02

03

国内外の 最先端技術に 触れることができる

最先端の技術を国防に活かすため、スタンド・オフ防衛能力、海洋アセット、無人アセット防衛能力、人工知能(AI)、次世代情報通信、宇宙、デジタルトランスフォーメーション(DX)、情報戦などの各分野において民生先端技術等を活用した早期装備化に向けた取り組みを推進しています。民間企業や大学、研究機関等の優れた技術を従来の技術に組み込むことで、新たな課題解決策が生まれるなど技術者としての好奇心や向上心が刺激されます。さらに諸外国との技術交流も積極的に進めているほか、国内外の大学院に留学する研修制度も設けています。



Research at ATLA 03

04

開発技術を民間転用することで 社会や産業の発展に 寄与できる

装備品等の一部として開発された技術を民生分野に活用することで、企業側の収益性向上につながるのと同時に防衛産業の基盤強化を図るのが「デュアルユース技術開発」です。防衛省が開発した戦闘機用高出力エンジンに使用する高耐熱セラミック複合材の民間航空機用への活用や、不審ドローンを検知する小型レーダー技術を空気中のちりを測定する風況観測に活用するなど、こうした技術の民間転用を推進することで防衛力強化と産業振興を両立させ、安全保障と経済発展の両面で国益の確保を目指しています。



Research at ATLA 04

Project 01

レールガン

民生技術の導入による、
極超音速パルスパワー砲の研究。

レールガンとは、電気エネルギーを利用して弾丸を発射する次世代砲です。将来に向けて、防空・遠距離打撃を目的としたレールガンシステムを構想し、実用化を目指した研究開発が進められています。火薬を用いる従来砲に対して、レールガンは電流と磁場によるローレンツ力を利用して弾丸を発射する原理であり、従来砲より大幅に向上した2,000m/s以上という弾丸初速を実現可能です。この結果、弾丸威力の向上・最大射程の延長・目標到達時間の短縮が期待されています。現在は我が国を含め米・欧・中国等が研究開発を進行中ですが、運用している国はまだありません。我が国では、艦艇、車両等に搭載するオンボード射撃を目標に、従来の単射の試作品から連射、砲外の安定飛しょう、射撃管制の研究を進めています。また、民生技術を積極的に活用し、レールガンシステムの一部として重要な電源の小型化と急速充電化を目指しています。電源の小型化には蓄電池の高出力化およびコンデンサーの高エネルギー密度化、急速充電化には半導体スイッチの高耐圧・大電流容量化がポイントであり、これらの課題解決に向けて国内各企業と協力して研究開発を進めています。

多くの知見に触れて知識と
技術を進化させ、課題解決に
取り組める人材になりたい。



Interview 01

研究所

陸上装備研究所 弾道技術研究部
2022年入庁 / 化学系出身

機械や電気等を専門とする同僚と共にレールガンの研究に取り組み、大学で身につけた材料特性の知識を基盤として、レールガン用材料に関する研究を立ち上げるべく、技術情報の収集・検討を行っています。また、技術協力に関する部外との調整、関連する手続きの遂行、会議の企画や取りまとめといった業務も担当しています。現研究室に配属されて以来、技術検討、国際学会への参加、野外・洋上試験の参加など様々な環境に身を置く機会がありました。異なる専門性や背景を持つ関係者と調整しながら物事を進める過程では常に新しい発見があり、視野の広がりや自身の成長を強く実感できる点に大きなやりがいを感じています。今後は留学制度を活用し、国外で最先端の材料科学を専門的に学びたいと考えています。そして、国際的な視点に触れることで自らの知識と技術を深化させ、より広い視野から課題解決できる人材となり、将来的には国際協力や研究開発プロジェクトに貢献したいです。



学生時代の研究

有機導体に関する研究に取り組み、電氣的・磁氣的特性に優れた有機結晶の合成と評価を目的として、有機物の合成から電気分解法による結晶成長を行いました。得られた単結晶については単結晶X線構造解析により分子配列や格子構造を特定し、さらに磁気測定を通じて導電性やスピン特性との相関を検討しました。

プロジェクト管理部は構想から廃棄までの事業の進捗について管理を行っており、所掌している装備品等について国会や報道機関などから質問された際の調査や回答の作成をしています。質問を受けると担当する部署に情報を確認し、様々なデータを取り寄せて回答文書を作成します。国会答弁では大臣をはじめ長官や部長が防衛省としての見解を述べることとなりますので、誤った報告とならないよう十分注意を払いつつ業務にあたっています。また、様々な部署と調整することが多く、中には回答期限が短い緊急性の高い対応もあることから関係部署の方々にできるだけ協力いただけるよう、経緯の説明や自らの考えも含めながら誠実かつ丁寧に行うことを心がけています。これまで主に研究や開発の試験に携わっており、どちらかというと知識を深めていく仕事でしたが、現職では掌握する範囲が幅広いため、専門にこだわらずできるだけ幅広い知見を得ていきたいと考えています。



学生時代の研究

大学院では有機化学を専攻。ヒトに寄生する菌のうち一般的な菌がヒトの免疫を活性させる構成成分を化学的に合成する研究をはじめ、当該合成成分を用いてヒトの免疫の活性を確認する研究や、ヒトと共生する菌のうち一般的な菌がヒトの免疫を活性させる構成成分の化学構造を同定する研究に取り組んでいました。

関連部署と密接な協力関係を築き、
国民に向けて
正確な情報を提供する。

Interview 02

事業管理官

プロジェクト管理部
事業管理官(宇宙・地上装備担当)付
2013年入庁 / 化学系出身

Project 02

スタンド・オフ・ミサイル

島嶼部の防衛と抑止力強化を
目的とした遠距離ミサイル防衛能力。

東西南北それぞれに約3,000kmにおよぶ我が国の領域には広範囲にわたって多くの島嶼があり、守るべき国民の生命・身体・財産、領土・領海・領空や資源が存在します。一方、諸外国のレーダー探知範囲や各種ミサイルの射程・性能の向上は著しく、脅威がおよぶ範囲は侵攻部隊の周囲数百km以上となります。そのため、我が国の様々な地点から重層的に攻撃を阻止・排除できる能力獲得を目的に、地上・航空機・艦艇などの様々なプラットフォームから発射可能なミサイルの多様化や、異なる特徴を持つスタンド・オフ・ミサイルの組み合わせを見据えて研究開発を実施しています。島嶼部を含む我が国に対する侵攻を防衛するためには、遠距離からの侵攻戦力の阻止・排除能力とともに、宇宙・サイバー・電磁波領域や陸・海・空の各領域における能力を融合した領域横断戦略が重要です。また、ミサイル攻撃を含む侵攻に対してはミサイル防衛システムの構築・整備に加えて、必要最小限度の自衛措置としてスタンド・オフ防衛能力の獲得と活用が必須となります。侵攻国の艦艇や上陸部隊等に対し、脅威圏外から対処するスタンド・オフ防衛能力の獲得のため、長射程化と迎撃回避能力を高めたミサイルの開発が急務となっています。



難易度の高い技術課題に対して
果敢に挑戦する面白さがある。

Interview 03

研究所

航空装備研究所 エンジン技術研究部

2023年入庁／航空宇宙工学系出身

事業管理補佐として島嶼防衛用高速滑空弾における開発全般の業務を担当しています。開発内容、計画、各種試験の日程などについて関係部署および試作品を製造する企業と調整し、技術データの取得に向けた試験を実施するなど装備品等の開発を推進しています。また、本開発に必要な予算要求や開発に必要な器材の調達業務も担っています。現在のシステムは装備品等に限らず多くの技術の集合体であり、それらが密接に組み合わさって構成されています。そのため、課題の解決は単独の技術だけでは困難であり、システム全体を把握し複数の最先端技術を活用して解決していくことに面白さがあります。また、業務とは関係ないと思っていた知識が思わぬところで役立つのも面白さの一つです。今後も自らの専門分野に関する知識を高めるとともに専門分野以外の領域についても学びを深め、複雑化するシステム開発に対応しながら計画的に開発を進めたいと考えています。



学生時代の研究

防衛省職員として働きながら大学院博士課程に在籍して学位を取得しました。大学院では機械工学を専攻し、宇宙用ロボットアームや大型搬送装置の運動や振動を最適に制御することで、より高速に搬送物を輸送することを目的とした制御設計手法について学位論文をまとめました。

早期装備化に向けて研究開発が加速しているスクラムジェットエンジンや、現在までのミサイルのメインエンジンである固体ロケットモータといったミサイルに係るエンジンの研究を中心に取り組んでいます。2025年には「島嶼防衛用高速滑空弾の性能確認試験（安全性試験）」を実施し、輸送時において島嶼防衛用高速滑空弾の加速用ロケットモータ部が火災や衝撃等に見舞われた際に、どれだけ安全に耐えられるかを評価しました。現在開発されている装備品等は年々技術的な難易度が上がっています。その技術課題を解決するためにどのような方法を取るべきか、どんな工夫をすべきか議論するのはとても面白いです。極超音速で飛しょうする誘導弾やそのメインエンジンでは、数値解析による性能確認が重要となるため解析結果を読み解く力が必要です。このような能力を高めながらも、装備品等に取り入れるべくアンテナを張っておくなど新たに創出される技術への知見収集を心がけています。



学生時代の研究

人工衛星の最適軌道設計について研究していました。その傍らハイブリッドロケットを使った小型ロケットを打ち上げるサークルに所属し、エンジンを設計して地上試験を実施していました。そこでエンジンを試験することの面白さに触れ、大学院ではスクラムジェットエンジンの研究に取り組んでいました。

近年複雑化する課題に対応するため
自らの知識をアップデートし続ける。

Interview 04

開発官

長官官房
装備開発官(統合装備担当)付

2010年入庁／機械工学系出身

Project 03

次期戦闘機

日・英・伊による共同開発で
最新防衛の要を創り出す。

我が国の防衛において要となる航空優勢の確保のため、国内・国外における連携範囲を拡大。2020年には航空機全体のインテグレーションを行う機体担当企業として三菱重工株式会社と契約し、そして2022年には日本・イギリス・イタリア3カ国首脳の合意のもとグローバル戦闘航空機プログラム（GCAP）を発表。3カ国の技術を結集し、開発コストやリスクを分散しながら優れた航空機を開発する体制を構築しています。現場では3カ国から派遣された職員に加え、技術のエキスパートである多数の技官も参画。IT環境や高度保全環境の整備に欠かせない人員だけでなく、実際に戦闘機を運用する自衛官や英伊の軍人からの知見も得る環境を整えています。グローバルかつ多彩な視点を学びながら、次世代の航空優勢保持に欠かせない新たな戦闘機開発を担えるのがこの事業の特徴です。また、本格的な最新鋭戦闘機の開発は、社会全般における幅広い波及効果が期待されます。例えば、高性能レーダーを起点に、次世代衛星通信開発技術やワイヤレス給電技術の開発へ展開、ステルス技術の開発から、自動運転用レーダーや自律航空管制システムへの応用、さらに一体化ファスナレス構造の確立から複合材旅客機や大規模複合材建築など、社会生活のさらなる技術革新にも影響を与えます。



運用開始後の未来を見据えながら
何が必要なのかを考え、形にする。

Interview 05

国際機関

GIGO (GCAP International
Government Organisation)

2014年入庁／コンピュータサイエンス系出身

プロジェクトマネージャーとして主に事業管理や予算要求業務等に従事しています。次期戦闘機の開発は英国、イタリアとの共同開発として進められており、様々な分野で専門性を有する職員が一つのチームとして取り組んでいます。プロジェクトを通じて新たな気づきを得ることもあれば、逆にお互いに抱える事情を背景に調整が難航することも多々あります。日々状況が大胆に変化していく中、自分はどういう舵を切っていくことが最適なのか、戦略的かつ計画的に考えていくために、互いに置かれている状況をしっかりと把握しながら良好な関係性の構築に努めています。そして、先の先の先を読んで、今この瞬間何をなすべきか、自分に何ができるのかをよく考えるようにしています。次期戦闘機開発は失敗のできない大切な事業です。大きなプレッシャーを感じながらも日本の安全保障を確保するうえで要となる戦闘機の実現に向けて、一歩ずつ歩みを進めていきたいと考えています。



学生時代の研究

大学学士・修士課程では機械工学のうち流体工学を専攻し、相変化を伴う高速流体に関する研究に実験・数値解析の両面から取り組みました。その後、技術研究本部時代に英国留学し、航空機用エンジンに適用される軸流圧縮機における軽量化・低コスト化を実現するための設計手法について研究しました。

英国に拠点を置くGIGOにおいて三カ国が共同開発を進める次世代戦闘機プロジェクトGCAPに携わっており、技術的な立場から機体を構成する様々なサブシステムにまたがる課題の管理と解決を担い、プロジェクトの円滑な推進に努めています。次期戦闘機が運用を開始する2035年以降の安全保障環境で真価を発揮するためには、従来のように“求められたものをつくる”姿勢から一歩進み、運用サイドと技術サイドが協力して「何が必要なのか」を共に考え、形にしていく発想への転換が求められます。GCAPのように巨大で国際的なプログラムの技術的中核として、この新たな姿勢を業務の中で実践していくことは大きな社会的意義を持ち、強い使命感につながる取り組みだと考えています。現在の業務を通じて得られる技術マネジメント力をさらに磨き、将来的には日本のリソースや文化に適した無人航空機やAI技術の効率的な研究開発プロセスのあり方を探求していきたいです。



学生時代の研究

海外留学制度を活用し、博士課程では生成AIを活用しAIエージェントの行動パターンをAIの専門家でない人に直感的に説明する説明可能なAI (XAI) について研究しました。この技術はパイロットと共に飛行する無人機の行動パターンを直感的に理解するコックピットインターフェースなど有人機と無人機の連携に必要不可欠です。

国際共同開発の中核を担い
強力にプロジェクトを進めていく。

Interview 06

事業監理官

プロジェクト管理部
事業監理官（次期戦闘機担当）付

2007年入庁／機械工学系出身

Project 04

宇宙関連装備

宇宙領域における防衛力を強化し、
陸海空の防衛能力を高める。

通信・観測・測位といったサービスは経済・社会活動にとって重要な基盤であり、災害時にも大きな役割を果たすなど国民の生命や暮らしにとって宇宙空間の利用は不可欠です。そのような環境下において、すでに各国では早期警戒、通信、測位、偵察機能を有する各種衛星の機数増加や能力強化に注力しており、安全保障分野のみならず科学技術や商業分野を含めて宇宙をめぐる国際競争は激化しています。そこで我が国では宇宙領域における防衛能力を早期に強化し、陸海空を含むオールドメインにおける能力を増幅するとともに、いかなる状況においても宇宙空間の利用を確保することを旨とする『宇宙領域防衛指針』を策定しています。宇宙空間から目標情報をリアル探知・追尾する戦況把握、脅威の早期探知やその意図・能力の把握、相手方の指揮統制・情報通信等を妨げる能力強化等を目指し、宇宙領域における自律的な防衛能力を強化しつつ、同盟国・同志国と相互に補完し合う体制構築に取り組んでいます。

宇宙から脅威対象を、
より早く、より広く、
より精細に見るために。

Interview 07

研究所

新世代装備研究所
宇宙・センサ研究所

2024年入庁 / 航空宇宙工学系出身

宇宙システム研究室は宇宙領域に関する装備品等についての研究を任務としており、我々に対する脅威対象を早期警戒するための衛星システムや、宇宙領域の状況把握を行うための技術を研究しています。宇宙システム研究室ならではの面白さは、宇宙システムに関する装備研究がこれから始まるという点です。宇宙領域に関する防衛装備庁の研究は宇宙システム研究室が所掌するため、宇宙領域の装備品等を自ら創製していく自負を持ちながら仕事ができます。一方で、自衛隊は宇宙領域の装備品等を現状保有していないため、必要な機能を一から抽出し、達成するための技術を考える必要があります。そのため、宇宙システム研究室に配属されてからは今まで触れたことのない分野の技術が関係することも増えました。新たな装備品等を創製に向けて要素技術を確立するために、その基礎となる技術を習得し、必要となる水準まで引き上げる防衛技術官自身の自己研鑽が一層重要であると感じています。



学生時代の研究

航空宇宙工学専攻の構造・材料研究室に所属し、膜面構造物の研究に取り組んでいました。ロケットに搭載できるものの重さ、大きさには限りがあるため、宇宙に運ぶには軽量かつ収納性の高い構造が求められます。その両方の性質を併せ持つ膜面構造物の挙動を弾性理論や数値シミュレーションに基づいて解析していました。

研究開発事業における予算の管理、進捗や成果報告といった事業管理を担当しています。私が所掌している技術分野は宇宙といった新たな領域やレーザーなど従来では考えられなかった将来の装備品等の研究が含まれています。一昔前のSFの世界が現実のものとなり、技術的には非常に面白い分野です。一方で、特に宇宙領域を含めた将来の複雑な装備システムでは個々の研究室や単独の事業では実現が難しい部分も多く、より一層他組織との協力や調整が不可欠となります。そのため、複数の研究開発プロジェクトを俯瞰し、計画や予算を最適化しながら組織内だけでなく他組織との連携も含めて成立解を見つけるのが腕の見せ所であり、また難しい部分でもあります。私自身これまで研究所の勤務が長かったので、単に制度やルールを伝えるだけでなく研究実施担当者に寄り添いながら各時点で役立つ情報や解決策を提示することで、各研究者が安心して研究を進められる環境づくりに貢献したいと考えています。



学生時代の研究

もともと物理学専攻で半導体に関する研究を行っていましたが、入庁後に電波センサといったシステム研究に取り組んでいたこともあり、国内大学院研修を活用して研究業務内容に関連した電磁波関係の研究をテーマに博士課程を取得しました。

研究者が円滑に
研究を進められるよう
必要となるリソースや環境を整える。

Interview 08

技術戦略部

技術戦略部 技術計画官付
1999年入庁 / 電気工学系出身

Project 05

船舶関連装備

高性能かつ効率的な艦船を開発し、日本のシーレーン防衛を支える。

日本の周辺国における軍事活動が活発化している中、それらに対する警戒・監視体制の強化が求められており、その切り札として期待されているのが新型FFM（護衛艦）です。新型FFMは、「もがみ」型護衛艦が具備する各種機能に加えて、ミサイル管制機能、長射程ミサイルの搭載、従来よりも探知能力が向上したソーナーシステムの採用等により、増大する平時の警戒監視における能力向上や、有事における対空戦、対潜戦等の各種戦に係る能力向上が図られています。自動化や省人化にも優れたもがみ型護衛艦の性能は海外でも高く評価され、現在、オーストラリア政府との間で豪州次期汎用フリゲート計画が進められています。艦船設計官は防衛装備庁で唯一設計機能を有しており、船舶の考案及び設計に関する専門的な業務を司ります。また、研究職技官としての初期配属があり、入庁後すぐに艦船設計に携わることができます。

艦船設計の関連部署と密接に連携し、次期護衛艦の設計を進める。



Interview 09

艦船設計官

長官官房 艦船設計官付
2021年入庁 / 機械工学系出身

艦船設計官付では自衛隊で運用予定である全艦船の設計を担当しています。現在はプロジェクトマネージャー補佐として次期護衛艦に関する設計を行っており、海上自衛隊からの要求事項をもとに設計を進めていきます。艦船はすべてオーダーメイドであることから初期検討から就役するまでに約7~8年という長い期間が必要です。また、昨今の日本周辺における安全保障環境を巡る国際情勢の変化やウクライナ情勢等でも注目されたドローンへの対策など艦船に求められる能力も多様化しています。そのため海上自衛隊の要求事項に応えつつ、現場で活動する海上自衛隊員が安全かつ確実に任務を遂行できるよう艦船設計に取り組んでいます。艦船は規模が大きく複数の所掌から成り立っているため、今後は所掌する幅広い分野に関する知見を深めつつ、全体を取りまとめるための高いマネジメント能力を持ちたいと考えています。



学生時代の研究

大学院では機械・材料・海洋系工学科の航空宇宙工学を専攻し、超小型衛星に搭載する電気推進器（エレクトロスプレースラスター）という電気推進の研究をしていました。イオン液体に電圧をかけることで推進する原理について数値解析シミュレーションを行っていました。

広帯域ベクトルセンサとは、広い周波数範囲の音に感度があり、また音源の方向が判別できる技術で、自衛隊の船から繰り出して使用する「えい航式アレイ（TASS）」に適用するものとして探知能力向上が期待されています。TASSは受波器が直線に配列されたケーブルであり、探知した目標が左右対照に表示されるため虚目標も探知してしまいます。ケーブル中のセンサを並列に並べて左右区別できる機能を持たせることはできますが、どうしてもケーブルが太くなってしまい大型化してしまうという問題点があります。そこで光ファイバを用いた小型のベクトルセンサにおける光源由来の雑音低減、受信周波数の広帯域化および高感度化を実現する研究を行っています。音響センサにおいて広帯域化と高感度化はトレードオフな関係でその両立は難しい課題ですが、技術の工夫がないかなど試行錯誤しながら研究を進めています。



学生時代の研究

大学では、細菌、ウイルス等の数十から数百ナノメートルサイズの微生物を研究対象とし、それらの微生物を医療材料や医薬品等に応用するための研究室に所属しており、その中で私は乳酸菌や納豆菌と並ぶ免疫を高めて体を守る作用を有する食用の発酵菌である酢酸菌由来のワクチンについて研究していました。

広帯域ベクトルセンサ技術を用いてソーナーの探知能力を向上させる。



Interview 10

研究所

艦艇装備研究所
海洋戦技術研究部

2024年入庁 / 化学生命工学系出身

航空装備研究所

航空装備研究所は、航空機及び航空機用機器並びに、無人機の機体システム、エンジン、誘導武器に関する研究や試験評価等を行っています。宇宙航空研究開発機構（JAXA）や米国防空軍研究所（AFRL）等の国内外研究機関とも協力体制を構築し、要素研究やシステム研究に取り組んでいます。



航空機技術研究部

航空機システム・無人機機能化研究室、空力・飛行制御研究室、機体構造・材料研究室、搭載装備研究室を有しており、航空機システム化技術、航空機及び搭載機器ならびに誘導武器の要素技術に関する考察、調査研究、試験評価等を行っています。



エンジン技術研究部

エンジンシステム研究室、エンジン先進要素研究室、エンジン制御研究室、ロケットエンジン研究室を有しており、エンジンのシステム化技術及び要素技術に関する考察、調査研究、試験評価等を行っています。



誘導技術研究部

誘導システム研究室、誘導システム評価室、誘導制御研究室、シーカ研究室、誘導管制研究室を有しており、誘導武器のシステム化技術及び要素技術に関する考察、調査研究、試験評価等を行っています。



システム研究部

火力システム研究室、戦闘車両システム研究室、無人車両・施設器材システム研究室、CBRN対処研究室を有しており、兵器・弾火薬類、施設器材及び車両のシステム化、放射線・生物剤及び化学剤に対処するための考察、調査研究、試験評価等を行っています。



弾道技術研究部

火力・防護力評価研究室、終末効果・防護研究室、弾道要素研究室、管制・自動化研究室を有しており、兵器・弾火薬類の要素技術、装備品等の耐弾材料・構造等についての考察、調査研究、試験評価等を行っています。



機動技術研究部

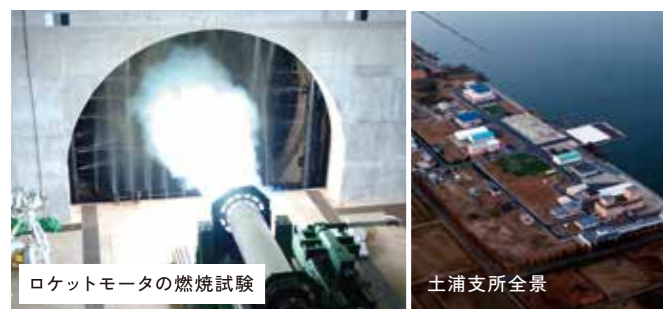
機動力評価研究室、車体・動力研究室、脅威探知・対処研究室、障害構成・啓開研究室を有しており、車両の要素技術、車両用機器、施設器材の要素技術についての考察、調査研究、試験評価等を行っています。

※CBRN:Chemical (化学剤)、Biological (生物剤)、Radiological (放射線)、Nuclear (核)

陸上装備研究所

陸上装備研究所は、兵器、弾火薬類、耐弾・耐爆、車両、施設器材、CBRN^{*}対処技術、個人装具等の研究や試験評価等を行っています。レールガンや無人車両といった将来の装備品等の開発では、各自衛隊を含む防衛省内の関係機関と連携し、先端技術を有する国内外の研究機関とも協力して研究を進めています。

土浦支所



ロケットモータの燃焼試験

土浦支所全景

土浦支所では、誘導武器の構成要素であるロケットモータの燃焼試験や環境試験の実施を通じて、その性能確認や信頼性向上に貢献し、防衛装備品の研究開発を支援しています。

新島支所



射場

誘導武器の発射試験

新島支所は国内唯一の誘導武器専用の発射試験場です。国内で開発されたほとんどの誘導武器は、ここでの発射試験を経て装備化され、配備されます。

Topics

EMP弾技術の研究

従来の爆弾やミサイル等による直接的な破壊によらず、敵のセンサ・情報システムの機能を一時的または恒久的に無力化するために、強力な電磁パルスが発生するのがEMP^{*}弾技術です。近年、装備品等の多くにセンサが多用されているほか、精密電子機器が組み込まれており、特に指揮通信、情報収集活動によって必要不可欠なものとなっています。敵の装備品等に強力なEMPを照射することでアンテナ・ケーブル等を経由し、レーダやセンサ等の内部の精密電子機器の喪失または一時的に阻害することで、弾丸や破片により直接破壊することなく、敵の能力を低減することができます。

※EMP: Electro-Magnetic Pulse (電磁パルス)



艦艇装備研究所

艦艇装備研究所は、艦艇の船体、船舶用機器、音響器材、磁気器材、掃海器材等に関する研究や試験評価等を行っています。海洋無人機の早期戦力化、ソナーシステムの最適化、海洋ビークルのステルス能力向上を大きな目標として、国内外の研究機関とも連携しながら研究に取り組んでいます。



海洋戦技術研究部

対潜戦評価基盤研究室、海洋戦闘指揮研究室、ソナー研究室を有しており、対潜戦及び対機雷戦の能力評価、戦術判断支援及び水中音響に関する考察、調査研究、試験評価等を行っています。



水中対処技術研究部

無人航走体基盤研究室、無人航走体連携研究室、水中武器研究室を有しており、船舶の無人化、水中武器、掃海器材に関する考察、調査研究、試験評価等を行っています。



艦艇・ステルス技術研究部

流体研究室、構造研究室、動力研究室、海上試験室を有しており、船舶、水中武器、掃海器材とシグネチャの低減に関する技術の考察、調査研究、試験評価等を行っています。

新世代装備研究所

新世代装備研究所は、情報・通信（AI・サイバー関連技術を含む）、レーダ及び光波などの電磁波領域に関する技術研究・試験評価等を行っています。「新世代」の装備品等の実現に向けて、先端技術を有する国内外の研究機関とも連携して研究を進めています。



AI・サイバーネットワーク研究部

指揮統制システム研究室、AI技術応用研究室、サイバーセキュリティ研究室、通信ネットワーク研究室を有しており、AI応用技術、情報処理技術、通信ネットワーク技術、サイバー技術及びこれらのシステム化技術の考察、調査研究、試験評価等を行っています。



宇宙・センサ研究部

センシングシステム研究室、宇宙システム研究室、レーダ研究室、光波センサ研究室を有しており、宇宙領域関連技術並びに電波センサ、光波センサ技術及びこれらのシステム化技術の考察、調査研究、試験評価等を行っています。



電子対処研究部

電子戦統合研究室、通信電子戦研究室、センサ妨害研究室を有しており、電波、光波による妨害・欺まん技術及び高出力の電波、光波による電子攻撃技術並びにこれらのシステム化技術の考察、調査研究、試験評価等を行っています。

川崎支所



川崎支所全景

試験施設

川崎支所では、艦艇や車両等の磁気低減、航空機等による磁気探知、水中電界による目標探知等、磁気及び水中電界などに関する研究を行っています。また、これらの技術を用いた装備の開発や改善にも伺います。

岩国海洋環境試験評価サテライト



水中無人機試験棟

大型音響水槽

海洋無人機等の試験評価が可能な幅35m、奥行30m、深さ11mからなる、我が国最大級の大型音響水槽や音響環境を含む多様な状況を模擬可能なシミュレーション装置等により試験を行っています。

飯岡支所



飯岡支所全景

RCS計測用パイロンと実大規模模型

飯岡支所では、国内唯一の屋外高精度RCS*計測場や可搬型計測機器を利用して、自衛隊の航空機・艦艇・車両等の電磁波計測技術に関する研究を行っています。

*RCS: Radar Cross Section (レーダ反射断面積)

Topics

高出力レーザーに関する研究

高出力レーザーを目標に照射し、瞬時にダメージを与える研究です。電気ので動くため、電源が供給される限り撃ち続けられることや、低コストであることに利点があります。迫撃砲弾や小型無人機に対処すべく研究が進められており、将来的にはドローンやミサイル対処を目指しています。



防衛装備庁では、大規模な試験等を安全かつ効率的に実施し、その試験データを正確に評価するため、国内に千歳・下北・岐阜の3つの試験場を有しています。

Testing site 01

千歳試験場

北海道千歳市に位置する千歳試験場は、我が国最大のエンジン高空性能試験装置や三音速風洞装置等を有しています。また、陸上装備においては、様々な車両走行性能を評価する車両定地試験施設を有しており、数多くの装備品等の創製に不可欠な施設です。



エンジン高空性能試験装置（テストチャンバ）



千歳試験場全景

Testing site 02

下北試験場

青森県下北郡東通村に所在する下北試験場は、火器及び弾薬類の弾道性能に関する試験実施基盤であり、火砲・弾薬の射撃試験及び各種誘導弾等の安全性試験を支援しています。また、各種計測器材、ドローン等を保有し、若手の能力向上を図りつつ、高精度かつ安全な試験を実施しています。



射撃試験における試験配置及び弾着点



爆破試験における爆破の状況

Testing site 03

岐阜試験場

岐阜県各務原市の航空自衛隊岐阜基地内に所在する岐阜試験場は、航空機・航空機搭載用機器の性能に関する飛行試験、航空機搭載誘導武器の性能評価試験を実施しています。また、各研究所が行う装備品等の試験研究支援も行っています。



試験計測用航空機BK-117



テレメータ計測車

防衛イノベーション 科学技術研究所

我が国の防衛や社会の在り方を大きく変える成果の創出を目指す研究所として、2024年10月に防衛イノベーション科学技術研究所を創設しました。様々な可能性を有する科学技術の探索、従来の常識を覆すブレークスルーへの挑戦、科学技術の迅速な活用、外部人材の積極的な活用、スピード重視などを掲げ、防衛イノベーションにつながる様々な取り組みを行っています。



革新型ブレークスルー研究

外部有識者にプログラママネージャ（PM）を任せ、防衛省・自衛隊の活動や社会を大きく変える新たな技術の創出を目指します。



実証型ブレークスルー研究

スタートアップ等の外部機関が持つ先端技術を組み合わせることで、将来の戦いに必要な機能、能力の早期実用化を目指します。



安全保障技術研究推進制度

防衛分野での将来における研究開発に資することを期待し、先進的な基礎研究を公募します。



先端科学技術に関する シンクタンク的な役割

科学技術の調査・分析や、科学技術を我が国の防衛につなげる方策を検討します。



政府横断的な取り組みを推進し
新たな成果を生み出す基盤を築く。

Chapter01

組織文化の異なるメンバーとともに
政府横断プロジェクトを進めていく。

現在は内閣官房に出向しています。防衛装備庁出身者ならではの技術的なバックグラウンドを活かして、防衛省をはじめとする関係省と調整を図り、政府横断的な取り組みを推進する役割を担っています。特定の省益にとらわれず、内閣官房の視点から国家全体の利益を意識しながら業務に取り組んでいます。総合調整の業務では、多様な組織文化や専門性を持つ関係者との円滑なコミュニケーションが欠かせません。相手の立場を理解し、丁寧な対話を重ねて信頼関係を築きながら、共通のゴールを共有し、誠実かつ柔軟に対応する——その積み重ねで取組の成果を最大限に引き出すことを意識しています。また、多様なバックグラウンドが交わるからこそ生まれる新しい発想やアプローチに触れることは大きなやりがいであり、この仕事の魅力だと感じています。

Chapter02

調整力やマネジメントスキルを磨き、
異なる分野をつなぐ役割を更に強化したい。

出向を通じて、これまでとは異なる組織の文化や価値観に触れたことで自分の視野が大きく広がりました。技術的な知識だけでなく調整力やコミュニケーション力の重要性を再認識し、多様な考え方を尊重しながら共通のゴールに向けて物事を推し進める経験は、今後のキャリアにおける大きな財産です。帰庁後は、出向先で得た知見を活かし、防衛政策と他省庁の政策がより密接に連携し、国家安全保障における成果が向上するような取組の構築に貢献したいと考えています。また、研究開発分野においても、現場で生じる課題やニーズを正確に把握し、最適な解決策を提案できる力を高めることで、より広い視点からプロジェクトを推進できる人材を目指しています。



Profile

国家安全保障局（出向）
参事官補佐

2009年入庁／電気工学系出身

主な出向先

- 内閣府
 - 国家安全保障局
 - 内閣衛星情報センター
 - 科学技術・イノベーション推進事務局
- 総務省
- 文部科学省
- 経済産業省
- 外務省
 - 在米日本国大使館
- 国立研究開発法人
 - 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)



先入観にとらわれず「何が必要か」を常に考え、
積極的に挑戦する姿勢が研究開発に生きてくる。

Chapter01

宇宙空間における物体の状況を
監視する研究に取り組む。

入庁後から宇宙関連事業に一貫して取り組んできましたが、大学院の修士課程は宇宙工学ではなかったため、技術的に深い理解を得たいと考えて留学制度の利用を決断しました。現在は、米国ロサンゼルスにある南カリフォルニア大学で月の近くの宇宙空間での宇宙物体の状況を監視する研究に取り組んでいます。地球周辺のようにGPSによる測位が利用できない環境下において、どのようにして観測対象（ターゲット）の位置を正確に推定するかを検討していますが、こうした将来を見据えたテーマに挑戦できるのは留学先ならではの貴重な経験です。授業の課題は質・量ともに手応えのあるものであり、それと並行して自分の研究を行うのはかなり大変ですので、休日はビーチや公園等の自然に触れることでリフレッシュするようにしています。

Chapter02

自分の中の固定観念をなくすことで
積極的なアプローチが生まれてくる。

南カリフォルニア大学を選んだ理由は、留学生の比率が多いことや多様な人種であふれるロサンゼルスという街で広い国際的な視野を身に付けられると考えたからです。実際にロサンゼルスは大らかな人が多く、それに影響されてか、私も細かいことは気にせず大局を見据えて行動するようになりました。多様なバックグラウンドを持つ人たちと交流する中で、「こうでなければならない」「〇〇をやっていないからダメ」などという自分の中の固定観念がなくなったのは大きな成長です。この留学を通じて得た国際的な視野や多様な研究アプローチを活かしながら、博士課程ではより専門的かつ深い技術的知識を修得し、そして将来的には培った知識や経験を研究開発業務に活かしていきたいと考えています。



Profile

新世代装備研究所
宇宙・センサ研究部

2015年入庁／情報理工学系出身

留学制度

職員の各専門分野における高度な知識の習得、プロジェクトマネージャー能力の醸成及び問題解決能力の取得を図るため、国内外の大学院へ留学する研修制度があります。

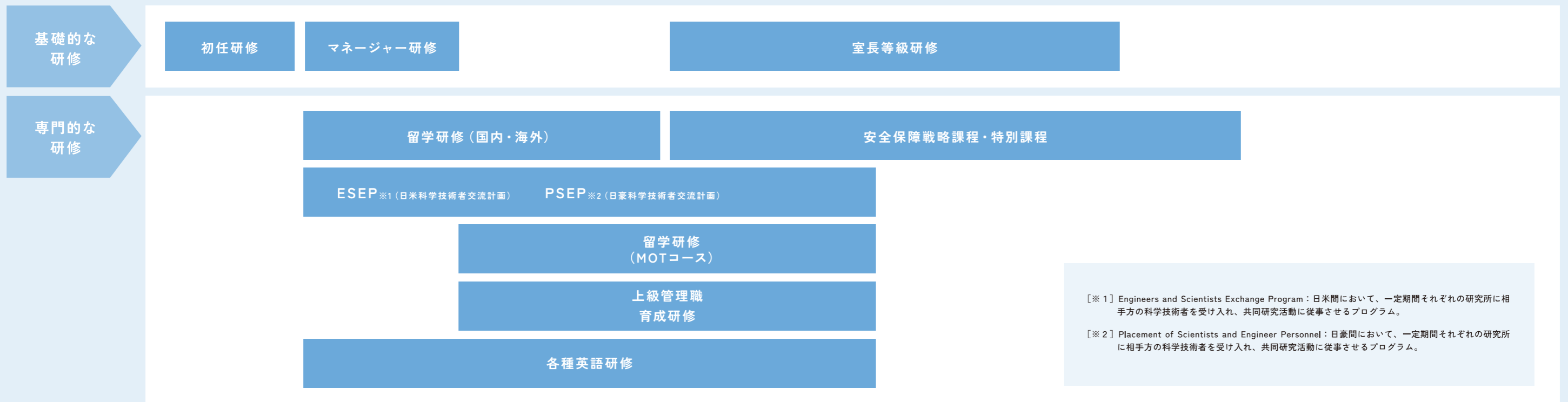
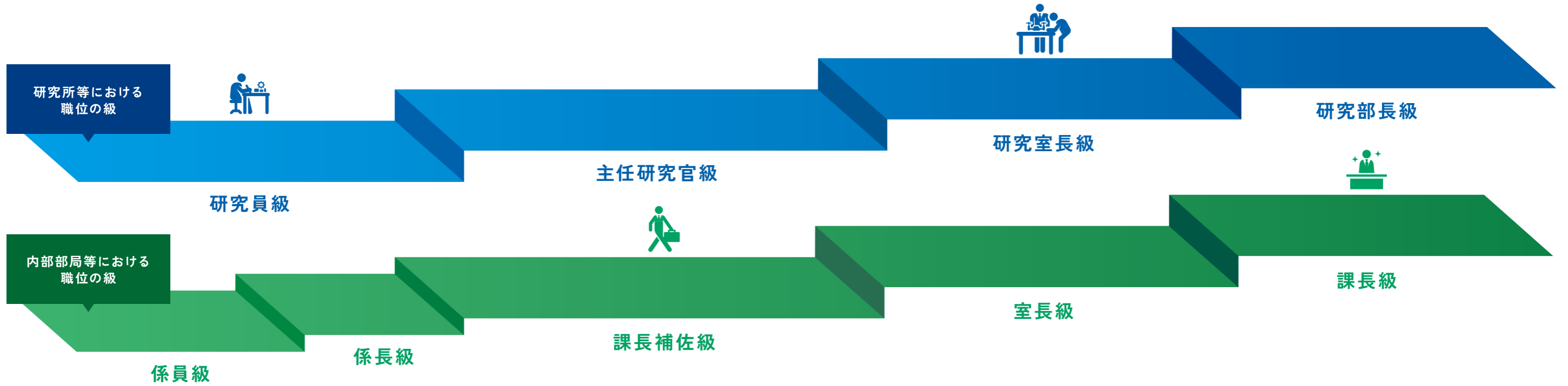
国外留学先例

- University of Southern California
- The University of Edinburgh
- Imperial College London
- University of Southampton

Career Development

キャリアステップ

初任研修及び市ヶ谷地区でのOJT研修を修了後、各研究所等へ配属。
 配属先において各装備品等の研究・開発・設計や試験評価に携わる中で、
 各分野の研究職としての技術と素養を身につけられます。
 その後は、装備技術に係る各種政策の企画・立案、国内外への留学、海外勤務、他省庁への
 出向、民間企業との人事交流等、多彩な経験を通じてキャリアアップの道が開かれています。



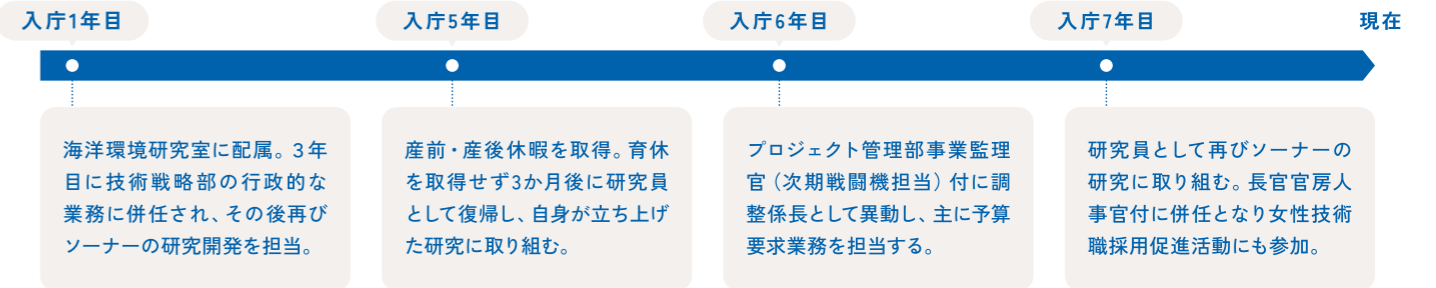
〔※1〕 Engineers and Scientists Exchange Program：日米間において、一定期間それぞれの研究所に相手方の科学技術者を受け入れ、共同研究活動に従事させるプログラム。
 〔※2〕 Placement of Scientists and Engineer Personnel：日豪間において、一定期間それぞれの研究所に相手方の科学技術者を受け入れ、共同研究活動に従事させるプログラム。

自らの研究が
国を守るために使われる
やりがいの大きな仕事です。

艦艇装備研究所
海洋戦技術研究部

2019年入庁／応用環境システム学系出身

Career History
これまでのキャリア



CHAPTER 01

水中音響の知識を安全保障に活かしたい。

大学院の博士後期課程では、タンカーやフェリーといった一般船舶による海中雑音がクジラなどの海洋生物に与える影響を評価するための音波伝搬シミュレーション手法について研究していました。その研究に取り組むうちに原点ともいえるソナーに興味を持ち、自らの知識や経験を活かして国の安全保障分野に貢献したいと考え防衛装備庁を志望しました。入庁してみると、自衛隊が使用しているソナーの研究開発を行うためには、運用の仕方に関する知識がとても重要ということがわかり、現場の隊員さんたちと意見交換をするなどひたすら勉強して知識を蓄える毎日でした。

CHAPTER 02

開発試作品の技術試験を何とか乗り越える。

入庁3年目に、海上自衛隊の運用に向けて開発中であった哨戒ヘリコプターXSH-60Lのソナーの技術試験全般を担当しました。限られた予算や期間の中で確実かつ安全に機能や性能を評価できるよう関係各所と試験スケジュールや方法等を検討していましたが、台風や試験器材の不具合によるトラブルに見舞われました。試験期間の終わりに近づくにつれ「何とかしなければ」という思いで部隊や製造メーカーの方々と腹を割って議論を重ねるようになり、各自が思いつくあらゆるリスクを抽出することで、より確実性の高い試験スケジュールや方法に見直し、トラブルを乗り越え技術試験を完了することができました。

CHAPTER 03

仕事と子育ての両立に葛藤する日々。

入庁5年目に子どもを出産。ちょうど自ら立ち上げた研究があり、さらに翌年4月から別の部署への異動が決まっていたこともあり、その前に研究を進めたいと育休を取得せず基本的にテレワークという勤務形態で復帰しました。家族や周囲の協力もあり、子育てをしながら研究に取り組むことができました。翌年には、プロジェクト管理部に異動して次期戦闘機の国際共同開発における予算要求業務を担当しました。国会答弁の資料を作成したりと忙しい日々が続く中、もう少し仕事を片付けたいという時にお迎えの時間が来たりと葛藤することが多々あり、目標の設定や時間配分の仕方など自分の仕事に対する取り組み方を考え直すきっかけになりました。

CHAPTER 04

自律型無人機を探知するソナーを研究。

2025年度から再びソナー研究室に戻り、潜水艦に代わる脅威として台頭しつつある水中の自律型無人機を探知するためのソナーや無人機に搭載するためのソナーの研究を行っています。最近では新たな技術が次々と現れるため、一見関係がなさそうな分野のニュースにも広く目を向け、新たな装備品の創製や既存装備品の能力向上につながるシーズがないか常に考えるようにしています。また、研究部に後輩がたくさん配属されましたので、各人を成長させながら部全体の仕事がスムーズに進捗するよう業務マネジメントができるようになりたいと考えています。

女性活躍推進への取り組み

女性の採用拡大



数値目標を踏まえた
計画的な採用



自衛官、事務官等の
各採用活動の連携など

女性の登用
目標達成に向けた
計画的育成



数値目標を踏まえた
計画的な採用



管理職の意識改革



女性職員の
キャリア支援

充実した福利厚生で、職員一人ひとりの業務と家庭生活との両立や健康をサポート。

育児や介護など様々なライフステージを経ても、長く働いていける環境を整えています。
(掲載している制度は一例です)



テレワーク

業務効率の向上、負担軽減及び両立支援を図るため、自宅で勤務が可能な制度です。



フレックスタイム制

勤務時間を5～22時の間で（コアタイムあり）変更ができる制度です。



育児休業

子が3歳に達するまで、子を養育するために認められる休業制度です。



子の看護休暇

小学校3年生までの子を看護するために年間5日（場合により10日）の範囲内で休暇を取得できる制度です。



産前・産後休暇

出産予定日の前6週から産後8週までの期間、休暇を取得できる制度です。



配偶者の出産休暇

男性職員が妻の出産に伴う入院の付き添い等を行うために2日間休暇を取得できる制度です。



部活動（市ヶ谷地区）

防衛省内には、和室や体育館が設けられており、居合道や茶道など様々な部活動が活動しております。業務とは関係ないところで思わぬつながりができたりします。



健康保険・医療制度（市ヶ谷地区）

職員とその家族を対象とした健康保険や各種検診の助成制度も充実しています。また、急な病気等にも対応できるよう医療施設を併設しています。



育児短縮時間勤務

小学校就学前の子を養育するために、勤務時間を1日3時間55分（週19時間35分）等に短縮できる制度です。



育児時間

1日の勤務時間の一部（2時間まで）を小学校就学前の子の養育のために充てられる制度です。



育児参加のための休暇

男性職員が妻の産前産後期間中に出産に係る子または小学校就学前の子を養育するために5日間休暇を取得できる制度です。



介護休暇

配偶者、父母、子、配偶者の父母等の介護のため、6か月の期間内で必要と認められる期間、休暇を取得できる制度です。



早出遅出勤務

養育・育児または介護等のため始業・終業時刻の変更を認める制度です。



不妊治療休暇

不妊治療に係る通院等のため年間5日（場合により10日）の範囲内で休暇を取得できる制度です。

Our Benefits at a Glance



保育園（市ヶ谷地区）

仕事と育児の両立を支援するため、防衛省敷地内に保育施設を併設しています。通勤時の送り迎えの負担を軽減し、万が一の際にもすぐに駆けつけることができる環境を整えることで、働く保護者の方々が安心して業務専念できる体制を整えています。



食堂（市ヶ谷地区）

充実した食事環境を整えた食堂には、人気のチェーン店である牛丼屋やカフェが入店。昼時にはキッチンカーの販売も行われ、美味しい食事を求める職員で活気に溢れています。豊富なメニューで毎日の食事を楽しむことができます。



部活動（市ヶ谷地区）

防衛省内には、和室や体育館が設けられており、居合道や茶道など様々な部活動が活動しております。業務とは関係ないところで思わぬつながりができたりします。



健康保険・医療制度（市ヶ谷地区）

職員とその家族を対象とした健康保険や各種検診の助成制度も充実しています。また、急な病気等にも対応できるよう医療施設を併設しています。

MALE VOICES IN CARE LEAVE



本音で語る！

男性育休取得者の声

上司や周囲の方々の理解がとてもあり、制度を活用できる環境が整っています。

4月に子どもが生まれたその日から9月まで育児休暇を取得しました。長い時間かけて寝かしつけや沐浴、離乳食づくりなどを妻と一緒に試行錯誤しながら取り組めたので育児に対する解像度がかかなり高まりましたし、妻も初めての育児でしたので「精神的な負担が軽くなった」と言ってくれました。上司は総じてワークライフバランスに対する意識が高く、遠慮せずに相談できる環境で、実際に育休を1年以上取得している男性職員もいます。予定よりも長い期間になりましたが、快く送り出してくれた周囲の方々にとて感謝しています。

総合職

採用予定区分

国家公務員採用総合職試験 (院卒者試験・大卒程度試験)	工学	化学・生物・薬学	数理学・物理・地球科学
	デジタル	農業農村工学	農業科学・水産 教養

採用実績 [区分別の採用実績]

採用年度	国家公務員採用総合職試験 (院卒者試験・大卒程度試験)				
	工学	化学・生物・薬学	数理学・物理・地球科学	デジタル	農業農村工学
2021年(R3)	13 (0)	0 (0)	1 (0)	—	—
2022年(R4)	15 (1)	2 (2)	0 (0)	—	—
2023年(R5)	10 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	—
2024年(R6)	11 (1)	3 (0)	0 (0)	3 (0)	—
2025年(R7)	12 (0)	3 (1)	0 (0)	3 (0)	0 (0)

1.()内は女性の採用数で内数。2.「-」は当該年度にその区分での採用者がいなかったことを示す。

主な勤務条件 [2026/1/1現在]

採用時の給与は、階級、勤務地等によって異なります。表は、新規卒業者の研究職技官が本庁(市谷地区)に勤務の場合(地域手当、本府省業務調整手当を含む。)

院卒者試験 博士卒	研究職俸給表 2級33号俸の場合	386,400円
院卒者試験 修士卒	研究職俸給表 2級17号俸の場合	349,080円
大学程度試験 学士卒	研究職俸給表 2級5号俸の場合	321,840円

手当	住居手当、通勤手当、扶養手当、超過勤務手当、期末・勤勉手当(いわゆるボーナス)等
勤務時間	1日7時間45分(原則として土曜日、日曜日、祝祭日は休み)
休暇	年20日の年次休暇(4月1日採用の場合、採用の年は15日)、病気休暇、介護休暇、特別休暇(夏季、年末年始、結婚、忌引き、ボランティアなど)
その他	育児休暇、育児短時間勤務、早出遅出勤務、フレックスタイム制等の体制も整っており、活用している職員が多くいます。

採用スケジュール

[国家公務員採用総合職試験]

2月	3月~5月	6月	7月	8月	9月	10月
出願	第1次・第2次試験	官庁訪問				内定

一般職

採用予定区分

国家公務員採用一般職試験(大卒程度試験)	デジタル・電気・電子	機械	物理	化学	農業農村工学
国家公務員採用一般職試験(高卒者試験)	技術				

採用実績 [区分別の採用実績]

採用年度	大卒程度試験				高卒者試験
	デジタル・電気・電子	機械	物理	化学	技術
	研究職採用	研究職採用			
2021年(R3)	1 (0)	2 (0)	—	—	—
2022年(R4)	2 (0)	1 (0)	—	—	1 (0)
2023年(R5)	2 (1)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (1)
2024年(R6)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	1 (0)
2025年(R7)	3 (0)	6 (0)	0 (0)	3 (0)	5 (0)

1.()内は女性の採用数で内数。2.「-」は当該年度にその区分での採用者がいなかったことを示す。

主な勤務条件 [2026/1/1現在]

採用時の給与は、階級、勤務地等によって異なります。表は、新規卒業者の研究職技官が本庁(市谷地区)に勤務の場合(地域手当、本府省業務調整手当を含む。)

一般職(大卒程度)	研究職俸給表 1級25号俸の場合	295,520円
一般職(高卒者)	研究職俸給表 1級5号俸の場合	250,040円

手当	住居手当、通勤手当、扶養手当、超過勤務手当、期末・勤勉手当(いわゆるボーナス)等
勤務時間	1日7時間45分(原則として土曜日、日曜日、祝祭日は休み)
休暇	年20日の年次休暇(4月1日採用の場合、採用の年は15日)、病気休暇、介護休暇、特別休暇(夏季、年末年始、結婚、忌引き、ボランティアなど)
その他	育児休暇、育児短時間勤務、早出遅出勤務、フレックスタイム制等の体制も整っており、活用している職員が多くいます。

採用スケジュール

[国家公務員採用一般職(大卒程度試験)]

2月下旬~3月	6月上旬	6月下旬~7月下旬	8月中旬	最終合格発表後随時	10月以降
申込期間	第1次試験	第1次試験合格発表 - 第2次試験	最終合格者発表	採用面接	内定
		官庁訪問			詳細は、人事院ホームページをご覧ください。

[国家公務員採用一般職(高卒者試験)]

6月中旬	9月上旬	10月上旬~中旬	11月中旬	最終合格発表後随時	随時
申込期間	第1次試験	第1次試験合格発表 - 第2次試験	最終合格者発表	採用面接	内定
		官庁訪問			詳細は、人事院ホームページをご覧ください。